

こぶし だより

働く障害者も

SSKW

働けるんだオレたちも



10.30 フォーラム

CONTENTS

- ① トピックス……………2P～3P
- ② 特集「自立支援法事業移行と（社福）こぶしの会」…4P～5P
- ③ 追悼（福田氏）……………6P
- ④ サポートーズ……………7P
- ⑤ アドレス・編集後記……………8P

No. 334

2009
11-12

トピックス

Topics

「こぶしの会」それぞれの現場から

「希望? 願望?」

10・30全国大フォーラム

一万人以上の大歓声と拍手の中で、長妻厚生労働大臣が自立支援法の廃止を明言しました。

これは、一〇月三〇日(金) 東京の日比谷



野外音楽堂で行われた「さようなら! 障害者自立支援法 つくろう! 私たちの新法を! 10・30全国大フォーラム」の一幕です。

このフォーラムは毎年同時期に開催しており、知的・精神・身体など障がいのある根拠を越えた障がい者やサポーターによって、自立支援法の廃止や「私たち抜きに私たちのことを決めないで」ということを訴えてきています。

昨年の開催時には、旧与党の発言者に対しては会場全体からの大ブーイングが起こるなど、参加者の「どうにかしなくてはやっていけない」という強い力が感じられました。今回は九月に成立した連立政権の合意事項に、「障害者自立支援法は廃止し、制度の谷間がなく、利用者の応負担を基本とする総合的な制度をつくる」との項目がもりこまれていたこともあり、始終明るい雰囲気集会となりました。

フォーラム内で、各政党(現与党など)のシンポジストからは障害者自立支援法の廃止にあたって、今後の展望などが発表されました。話を聞く限りでは、私たちの思いを汲み取っていただいていると感じることができました。

しかし、話には現実的な裏づけ(金銭面など)があったわけではありません。実現できるかはさておき、こうしたい、ああしたいと



いきましよう。

なお余談ですが、帰りのバスの中でこぶしのなかまに感想を聞きましたが「人がいっぱいいた」「デモ行進に参加できなくて残念だった」というものでした。そこで、どうしてフォーラムに参加したのか、どんな法律を変えたいと訴えたのかなどを問うと、代表者として参加し、フォーラムや行き帰りのバスの中でも何度も周囲の話題となり、この数年間何度も話し合いをしてきたにも関わらず、自立支援法や応負担について答えることができませんでした。

支援の至らなさを感じるとともに、法律の上で成り立っている生活の実感をもつためにはどのようにしたらよいのだろうかと考えさせられました。

(廣本)

いっただけの願望にすぎなかったのではないのでしょうか。

今後はどれだけ私たちの声を新法に反映させ、実現させることができるのかが課題となります。これからの動きに注目して



こぶし作業所
「ピタリ賞をねらえ」
今年も楽しく芋掘り大会

昨年に引き続き、一〇月二四日(土)、利用者のご家族の井沢様の畑で家族会・仲間自治会レク部共催の大芋掘り大会が行われました。笑顔あふれる畑の中、「なんだか芋って簡単に抜けるんだなあー」と思っていたら、実は前もって準備してくださっていたそうです。感謝！感謝！

さて、今年の大芋掘り大会は「ピタリ賞をねらえ」というレク部のなかまが練りに練った(?!)家族、職員を含む全員参加企画があり、超豪華商品が当たる、七〇〇gピタリのサツマイモを見つけるというゲームをしまし



た。チャンスは一回です。そうなりますと、なかまに負けじと家族、職員も笑顔を絶やさず必死になって七〇〇gのサツマイモを感覚で掘り当てていました。

それと同時に一つの間に、か、あまーい、おいしそうな匂いが漂い始め、匂いの先を見つめると焼き芋が焼かれています。すでに食べ始めているなかまもいましたが、「ピタリ賞をねらえ」も激しい争いになってきました。あるなかまはしりもちをつきながら、あるなかまは職員の腕をサツマイモと間違えながら七〇〇gのサツマイモを見つめる楽しい時間が過ぎ、いよいよ結果発表です。

とりあえず結果は置いて、もう一つの楽しみがお昼です。家族会で豚汁やお赤飯などを用意していただき、ジュースやビール(ノンアルコール)と一緒にいただきました。芋

掘り後の畑での食事は最高でした。

いよいよ結果です。大きな拍手がなる中、優勝は大木丈典さん、新田さん大橋さんと続きます。そして、ブービー賞は菊池隆之さんでした。景品は上位と下位入賞者には宝くじ付景品が、中位入賞者には宝くじはありませんでした。また、最後には袋からはみ出るほどのサツマイモをお土産として持ち帰らせていただきました。

来年度からはこぶし作業所も茂原に移転し、規模も拡大する中、このような企画は来年できるかどうかわかりませんが、家族会のご協力の下、レク部メンバーがそれぞれの役割をもち、参加者全員が楽しむことができました。本当にありがとうございました。(金子)

法人設立30年記念

民族歌舞団「荒馬座」公演決定!

日時 平成22年4月17日(土)
12時30分開場 13時30分開演
場所 宇都宮市文化会館大ホール
※一月末チケット販売開始

—実行委員会—

荒馬座は、和太鼓や日本の踊り、お囃子といった民族芸能を上演している歌舞団です。その舞台は、子どもたちにも楽しめるものから、大人でも見応えのあるものまで幅広く、あらゆる年齢層に親しまれています。この機会にあなたも民族文化に触れてみませんか。

自立支援法事業移行と (社福)こぶしの会

特集



こぶしの会では、2010年(平成22年)度4月1日より、日中活動関連の事業所(こぶし作業所、けやき作業所、セルフ・みらい、県東ライフサポートセンター真岡)が、新しいといってももう3年も経ちますが、新法に基づいた事業に転換する予定です。古い事業名は知的障害者通所授産施設、新しい事業は、それぞれ多機能型事業所(就労移行支援事業、就労継続支援事業B型、生活介護事業など)といえます。

これから、それぞれの事業所で、来年度へ向けた準備を進めていくこととなりますが、そのおおまかな内容をこぶしだよりの中で、事前にお伝えしたいと思います。

■この間の障害者自立支援法改正の動き

夏の総選挙の結果、民主党を中心とする新たな政権が樹立、その連立政権政策合意において、「障害者自立支援法廃止」「制度の谷間がなく、応能負担を基本とする総合的な制度をつくる」ことが確認され、障がい者分野の施策が大転換される可能性が大きくなりました。それなのに、なぜこの時期に法人全体が自立支援法への事業へ転換するのかと感じる方も多いと思います。新法制定の情勢解説は今後待つとして、この時期に事業移行の意味を考えてみます。

- ① 障害者自立支援法の積極面(就労支援の重視、重度重複障害者の手立てなど)を活かしていく。
- ② そのための補助金制度を利用し、施設・設備を整備する。
- ③ 地域活動支援センターの事業移行を進め、第2種福祉事業として運営を強化していく。
- ④ すでに移行している第2けやき作業所とともに、法人全体の転換を進め、事業所間の連携を強化する。
- ⑤ こぶし作業所の新築移転は事業移行が条件であることなどがあげられます。いずれにしても、玉石混交の法律の積極面を活かし、停滞する障害者福祉を果敢に切り開いていこうというものです。

■新しい事業への移行

こぶしの会では、すでに2006年(平成18年)10月から、精神障害者通所授産施設、障害者デイサービス事業及び、グループホームが新しい事業へ移行しています。これらの事業は、当初、障害者自立支援法に基づく新しい事業への転換を義務付けられていたからです。

それでは、いままでの事業がどのように新しい事業へ移行するのか比較してみたいと思います。現在の事業は、基本的には次頁(表①)の5つの事業から選択していきます。

■こぶしの会の事業移行のポイント

新しい事業への移行をする上で、こぶしの会が大切にしたいことをあげてみます。

一つ目は、いままでの取り組みを後退させないことです。例えば、「障がいの種別や程度にかかわらず、受け入れる」ことや、「日中活動の場は『働く』ことを中心に支援をすること」、「必要な生活支援等を必要に応じて提供していくこと」などがあると思います。こぶしの会では、制度が変わっても、こうした考え方を引き継いでいきます。

二つ目は、障害者自立支援法の良いところを生かして、取り組みを発展させることです。

こぶしの会の事業の拠るべき文書である中長期計画では、「福祉サービスの最終目標は、その最適化を図ることにある。(中略)…今後は、重度の障がい者に焦点を置いた福祉サービス

表①

現在の事業		新しい事業		
		・基本的には3つの障がい者に対応		
事業名	事業の内容	事業名	事業の内容	
知的障害者授産施設(こぶし作業所、けやき作業所、セルフ・みらい)	・基本的には知的障がい者だけが利用できる。 ・利用者のニーズに応じて、就職の支援、作業所内での労働、生活支援等を総合的に支援する。	就労移行支援事業	・就職の準備と実習、就職、就職後の支援をする。	
		就労継続支援事業	A型	・当面就職困難な人が対象。 ・一般の雇用と同じ条件で利用する。
			B型	・当面就職困難な人が対象。 ・最低賃金などは適用されないが、なるべく高い工賃を支払い、自立生活を助ける。
地域活動支援センター(県東ライフサポートセンター)	・小規模作業所の新しい法律に基づいて位置づけられた事業名。	生活介護事業	・生活上の支援(食事、排泄、入浴など)が常時必要な障がい者の日中活動の場	
		生活訓練事業	・基本的な生活技術を身に付けるための訓練事業。	

の充実が問われるので、障がい者1人ひとりの個性に応じた支援プログラムを開発し、福祉サービスの最適化を目指すことが必要である。」と端的に述べています。

特に、就労移行支援事業では、就職のためのプログラムを準備し、新たにできた就労・生活支援センターとも連携し、本格的な一般就労を進めることや、自立できる工賃を目指して、就労継続支援事業を考えています。そのための補助金制度も創設され、こぶしの会も生産活動の設備整備として利用を計画しています。

一方で、重い障がいがある人たちの生活介護事業は、医療職の配置もあり、障がいの重度化に対応できる条件も生まれています。

こうした新しい制度の積極面を生かし、こぶしの会内外の支援ネットワークを構築しながら、これまでにない資源(自立訓練事業)をも活かしながら、いままでの支援を質的に高めていきたいと考えています。

さいごに、利用者のねがいをもとに、こぶしや地域の関係者と連携し支援することです。

新たな制度の重要な点は、利用する事業や支援プログラムの「自己選択」が強調されているところです。具体的には、利用者本人の希望やねがいをうけ、利用する事業の選択、個別支援計画を通じて、支援内容を職員とすり合わせていくことになります。互いの率直な話し合いで、中身のある新たな事業をつくっていくことになります。

■移行へむけたスケジュール

法人として、事業移行対策委員会(法人と各事業所担当責任者で構成)を設置し、全事業所が円滑に事業移行できるようにします。

基本的には地域事業部長を本部長に、次年度の人事体制を見通しながら進めていきます。また、地区事業部(宇都宮市、真岡市、芳賀町)と各事業所に移行担当職員(責任者)を置きます。

利用者(自治会、家族)への説明会(法人と事業所別)を開催します。事業移行対策委員会が、説明会を企画します。

本人の意向調査をていねいに取り組んでいきます。個別に面接を実施し、移行の説明を行い、本人のニーズ調査と事業所の見立てをすり合わせていきます。

利用する事業が決まったら、障害程度区分調査(行政手続き)を、もよりの行政窓口へ行き、利用サービスの申請をします。

受給者証の発行後、個別支援計画を確認しながら、契約書、重要事項説明書の取り交わしを行い、4月1日の新事業開始を待ちます。

追悼

福田貞夫さま

(けやき作業所等後援会長)



映画上映会であいさつする
福田貞夫後援会長

けやき作業所の庭にも落ち葉が舞い、寒さも増してきました。一〇月二七日にお亡くなりになられた、福田後援会長へ追悼の意を込め、思い出をここに紹介させていただきます。

「おー頑張ってるな」と朝の散歩の途中、作業所の庭で落ち葉掃きをしている私たちに、必ず声をかけてくれたことが、昨日のことのように思い出されます。

地元の高校の先生であった会長さんは「福田先生」の愛称で、とてもお顔が広く、芳賀町を歩けば、「先生に教えてもらったよ」という生徒さんが数々いました。野球の顧問で

あった先生は、歩く姿がいつも凜とされていていました。

最近になり、病気で倒れ入院されたことを聞いても信じられませんでした。さみしさが込み上げてきます。とても気さくで温厚な会長さんは、けやき作業所、第2けやき作業所の職員にはもちろんのことですが、何とんでも利用者みんなに優しくしたこと感謝しています。

また、地域の行事にけやき作業所の利用者が参加できるように声をかけてくださり、地域の公民館で障がい者のパソコン教室を開くことができ、作業所からもたくさんの方が参加しました。

何事にも挑戦することを諦めず、利用者のことを一番に考えてくださる熱い思いが私たちの拠り所でした。後援会長をお引き受けくださったことも、地域の人たちとけやき作業所の利用者を繋いでいきたいという一心であられたことと思います。

地域の中に障がい者の理解をさらに広めてくださるサポーターとして活動して下さった思い出はたくさんありますが、その一つに「ふるさとをください」の映画の上映会があります。

上映会の前日までけやき作業所に毎日来てくださり、実行委員会の先頭に立って、たくさんの方々にも広めてくださいました。

映画の内容は作業所が地域に建てられ、障がい者が地域の人たちに理解されていくというシナリオであったこともあり、特に力を入れてくださったのかもしれない。

上映会当日の会場で、司会を担当するために舞台の袖にいた所長に、挨拶を担当されていた会長さんは、「何回やってもどきどきするね」とおっしゃり笑っていたそうです。経験豊富な会長さんが司会の所長の緊張を和らげようという、優しさから出たお言葉だったように思われます。

どんなに忙しい中でも、けやき作業所の相談役を引き受けてくださり、誰からも頼りにされた存在であり、今思うと無理を言っていた私たちが甘え過ぎてしまったかなと反省します。

まだまだ地域の応援団として頼っていきたいという気持ちがいっぱいですが、先生のやりたかった思いを受け継いで、地域のつながりを深め、障がい者の地域生活を豊かに広げるようにがんばりますので、ずっと見守っててください。

(白井)

こぶしSupporters

サポーターズ

後援会 保護者会・ボランティアのページ

～ こぶしの会を地域の大切な社会資源に育てるため、私たちは強力にバックアップします ～

～ 12年間 仲間と共に ～

今回ご紹介するのは、過去数回こぶしだよりに登場して下さった和田ちいさんです。改めてのご紹介になりますが、和田さんは、障害児学校寄宿舎に定年まで勤務され、その後、約12年にもわたってこぶし作業所のボランティアを続けてくださっています。そんな和田さんですが、意外にも現役時代には、自分は絶対にボランティアなどしないとの確信があったのだそうです。

○ボランティアを始められたきっかけとは何でしょうか？

定年退職後は、今までできなかったこと、いろいろありますが、太陽を浴びたばかりの布団に寝ること、そして、大好きな編物をして時間に追われない生活、それが夢でした。ところが退職してみると、それだけでは満足できなかったのです。そこで、こぶし作業所のことは前々から知っておりまして、鈴木所長さんとも知り合いました。家から近い(車で15分くらい)こともあり、ボランティアを始めたのです。それまではボランティアをやろうという気持ちはありませんでした。

○それがここまで長く活動して下さっている理由とは何でしょうか？

「おはよう」「おはようございます」と元気な挨拶は、1日の活力をもらった気がします。さあ、作業の始まりです。1週間元気だった、こんなことがあったよ、などなど、なかまのおしゃべり、そして楽しい時間が過ぎていきます。みんな一生懸命作業をしている、笑いがある、私はそんななかまを見るのが好きです。新しく入所したなかまとだんだん打ちとけて、話しかけに返事が返ってきたときは本当にうれしいものです。こんななかまの交流が長続きのひとつだと思っています。

また、行事への誘い「今年も芋掘りがありますよ」など声を掛けていただくと仲間に入れてもらえたと嬉しい気持ちになります。ほくほくの焼き芋おいしいですね。なかまと食べるおいしい給食、そういうことが一緒にあって12年間続いているのだと思っています。私はこぶしのなかまが好きなのです。



後日、和田さんにお会いする機会がありまして、ボランティアを12年続けていく中で一番の出来事は、なかまと仲良くなれたこと。そして、キャンプや旅行でスイカ割りやキャンプファイヤーをしたこと。一緒にプールに入ったり、みかん狩りをしたり、なかまと行事に参加できたこと。そういった行事に声をかけてもらったこと。などと、お話をいただきました。加えて、学校勤務時代の卒業生のその後の活躍の様子が見られること、保護者の方との当時の思い出話に花が咲くことなども楽しみだそうです。職員としては、卒業していったなかまたちのその後の様子というものは気掛かりなものですから、それを間近に見守れるということは、和田さんにとってとても良い機会となっているようです。

逆に、悲しかったことについてもお伺いしてみますと、なかまたちが緑地公園にゴミ拾いに行っているのを知らずに来てしまい、作業所になかまが誰もいなかったこと。流感で作業所が休所になったことを他所から聞いたこと。など、連絡漏れで寂しい思いをしたことを挙げられました。こちらのお話は、こぶしに対しての貴重なご意見・ご要望としてお預かりさせていただきます。また、「新しい作業所が茂原に移ってしまい、12年間のボランティアが途絶えてしまうことを悲しく思っていました。何とか利用者と同じようにこぶしに通えないかしら」と、お願いされました。

突然のインタビューに答えてくださり、本当にありがとうございました。連絡漏れに関しましては今後の対応の参考にさせていただきたいと思います。そして、これからもこぶし作業所の活動にぜひご参加いただければと思います。今後ともよろしく願いいたします。

(村村)

社会福祉法人
ほぶしの会

- こぶし作業所 ㊟ 321-0902 栃木県宇都宮市柳田町 1401
・知的障害者通所授産施設
・日中一時支援事業
TEL 028 (662) 1911 FAX 028 (662) 1912
E-mail kobushi@chive.ocn.ne.jp
 - こぶし作業所生活支援センター ㊟ 321-3235 栃木県宇都宮市鎌山町字東原 146 - 7
・在宅障害(児)者の相談・支援
TEL 028 (613) 5703 FAX 028 (662) 1912
E-mail kobushi-sw@tenor.ocn.ne.jp
 - こぶしのときわ荘 ㊟ 321-0912 栃木県宇都宮市石井町字内野 2867 - 3
・知的障害者ケアホーム
TEL 028 (667) 5531
 - くるみ ㊟ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 2244
・知的障害者ケアホーム
TEL 028 (664) 0414
 - けやき作業所 ㊟ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 2244
・知的障害者通所授産施設
TEL 028 (687) 1040 FAX 028 (677) 5789
E-mail keyaki@carrot.ocn.ne.jp
 - 生活介護事業けやき作業所
・生活介護事業
 - 第2けやき作業所 ㊟ 321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田 1532
・就労移行支援事業
TEL 028 (677) 0495 FAX 028 (687) 4818
E-mail inageda@fancy.ocn.ne.jp
 - 就労継続支援B型事業
 - 県東ライフサポートセンター ㊟ 321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田 1532
「ほっとCHA」
TEL 028 (687) 0311
・地域活動支援センター
 - 県東ライフサポートセンター「真岡」 ㊟ 321-4305 栃木県真岡市荒町 3 - 9 - 5
・地域活動支援センター
TEL 0285 (83) 2567 FAX 0285 (83) 2567
 - すずらの家 ㊟ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 2305 - 2
・知的障害者グループホーム
TEL 028 (677) 4430
 - けやきハイソ ㊟ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 178
・知的障害者ケアホーム
TEL 028 (677) 2876
 - 第2けやきホーム ㊟ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 1204 - 4
・精神障害者グループホーム
TEL 028 (677) 0776
 - コーポ峰 ㊟ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 775 - 2
・知的障害者ケアホーム
 - セルプ・みらい ㊟ 321-4363 栃木県真岡市亀山 1043 - 23
・知的障害者通所授産施設
TEL 0285 (81) 1155 FAX 0285 (81) 1177
E-mail selp-mirai@carrot.ocn.ne.jp
 - ぼてっつと ㊟ 321-4364 栃木県真岡市長田 1 - 12 - 5
・知的障害者グループホーム
 - 芳賀地区障害児者相談支援センター ㊟ 321-4305 栃木県真岡市荒町 110 - 1 市総合福祉保健センター内
・在宅障害(児)者の相談・支援
TEL 0285 (80) 7765 FAX 0285 (80) 7765
 - 県東圏域障害者就業・生活支援センター「チャレンジセンター」 ㊟ 321-4305 栃木県真岡市荒町 111 - 1
・障害者の就業相談・支援
TEL 0285 (85) 8451 FAX 0285 (85) 8452
-
- 法人事務局(総務・企画部) ㊟ 321-0902 栃木県宇都宮市柳田町 1401
TEL 028 (613) 3707 FAX 028 (666) 6128
E-mail sphb8h99@jewel.ocn.ne.jp

本会の定款、事業計画、財務諸表等を閲覧ご希望の方は、各事業所までお申し出ください(閲覧時間 8:30 ~ 17:00)

編集後記

ある朝早く、はるか西の林の上空にバルーンの群れが、ぼつぼつとミニトマトのように停泊しているのを見えました。作業所の前庭でぼうっと眺めていると、寄って来た早起きの利用者が、「今朝のように、ちょっと寒いくらいのほうがいいよ。バーナー燃やして上昇気流がつくりやすいんだらうな。降りるのは、田んぼや畑だ。この季節の田んぼなら、迷惑もかからないってわけかなあ」と話してくれました。私は、ある田んぼを思い出していたのです。この夏の夕方「首都圏ニュース」で、芳賀町の元県職員、中茎(なかくき)元一さんの取り組みを紹介していました。田んぼと小川に魚道と呼ばれる階段状の上り水路を設置して、魚を田んぼに戻そうという試みです。「ドジョウもフナも、昔から田んぼで産卵するでしょう。田んぼに生き物が帰ってくると、稲につく害虫を食べに鳥もやって来る」。一晩で100匹をこえる小魚が、この8メートル20センチの魚道をエイコラ上って来たそうです。やはり養分に富んだ田んぼからの水の味がわかるのでしょうか。最後に子どもたちまで帰って来る? 「観察会」ではしゃぐ子どもたちの中心に立ち、虫や小魚を手にものせて説明する中茎さんの笑顔も素敵でした。大空のトマトもいつのまにか大きくなって、「だからバルーンの操縦者ってさ、長靴はいているんだよ」と聞こえてきた時、私の頭の中は、ドジョウや鳥や、野球帽を逆にかぶってほほ笑む中茎さん、芳賀のあの子どもたち、あの田んぼはいつか? おっと、バーナーを燃やす人たちの足元の長靴も一緒に着地したのです。(矢板)

編集委員

矢板 勉 松本 裕生 河原 とき子 菊地 豊 星野 早苗 稲村 淳彦

発行所 郵便番号一五〇〇三

東京都世田谷区砧六―二六―二一
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価五〇円